

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
<b>I 町民が生産を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進</b>							
1	<b>家庭教育支援の充実をめぐる。</b> ・ 啓発活動の推進 ・ 全校生徒の三者面談実施	3.2	3.2	○メディアによる身体への影響についての授業(9月-11月)や定期テスト前週にメディアコントロール・ワークを実施。また、保健だよりや町の防災無線も活用し啓発したことで、保護者の協力を得られ、家族で取り組んだ家庭が増えている。 ○夏季休業中に全ての家庭と個人面談を行い、家庭の状況や学校での様子などの情報交換することで、家庭と連携した支援ができた。 ●アンケート結果では、生徒・保護者ともに92%以上が肯定的な評価であった。今後も家庭と協力・連携しながら取り組みを継続し、健康や学力向上につなげる必要がある。	3.7	3.7	○多様な媒体を組み合わせた啓発が実効性を高めていると評価します。 ○評価指標及び具体的目的であるメディアに関する授業や啓発活動に計画通り取組んでおり評価できる。 ○メディアによる影響についてしっかり家庭と連携して取組んでいる。今後も継続して下さい。 ○個人面談では、より深い生徒理解につながったと考えます。 ○三者面談についても、全家庭と実施できており、家庭と連携できてきたことは評価できる。 ○考察・分析にある通り、健康や学力向上につながることを期待する。
<b>II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人材を育む教育の推進</b>							
1	<b>読書活動を推進する。</b> ・ 貸出冊数30000の達成 ・ 読書事務との連携 ※3000冊の根拠として、1か月1人2冊を目標と設定している。(144名×2冊×11か月=3168冊)	3.0	3.0	○年間8回各学年の「読み聞かせ」を実施し、本に興味をもち、親しむ習慣につながっている。 ○本に興味をもたせる活動として、あおぞら図書館を年5回開催した。(64名) ○昨年度から継続して、キャリア教育に関する新聞記事をスクラップシートにまとめ、教材として活用できるよう整理しているが、活用までには至っていない。 ●貸出冊数2758冊(R8.2/27現在) ●読書をする生徒が増えない状況ではあるが、上記の取り組みで、生徒・保護者のアンケート結果は、昨年度より、平均で+9、8ポイント上昇しており、全てのアンケート項目の中で、上昇率が一番高い。今後も、あおぞら図書館や委員会活動、各教科での図書室利用など、創意工夫しながら、本や新聞に親しむ生徒を増やしていきたい。また、生徒の読解力の向上にもつながってほしい。	3.7	3.7	○多角的に生徒が本に触れる「場」と「機会」を実施している点を高く評価します。 ○情報の蓄積は生きた教材となる今後の活用を期待します。 ○生徒たちに興味を持たせる為、あおぞら図書館や新聞記事からスクラップシートを作成する等素晴らしいと思います。少しずつ浸透して欲しい。 ▲スクラップシートの活用は出来ないが、活用法については検討が必要と思われる。一般的には、定期テストの社会などに時事問題を入れるというのがあるが。 ○貸出冊数については、今のペースのままであれば達成できるのではない。 ○読み聞かせの継続は今後お願いしたい。 ▲一定の評価はできるが、更なる取組の強化を求めます。
3	<b>人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。</b> ・ いじめ実質ゼロ ・ 道徳教育・人権教育の推進 ・ いじめ防止基本方針に基づく取組の推進 ・ 「いのちの教育週間」での啓発活動の実施	3.3	3.3	○道徳の授業を核にし、平和学習、命を大切に教育、人権学習集は、生徒の心に響く学習ができるよう工夫・改善しながら実施できた。 ○毎月の学校生活アンケートやいじめ不登校対策委員会、いじめの早期発見や不登校生に対する対策を協議し解決に努めた。また、関係諸機関、SCやSSWと連携し、不登校・不登校傾向生徒の改善を図ったが、なかなか解消までにはつながらない状況である。 ●アンケート結果は、生徒(94、4%)・保護者(85、7%)と昨年度より、平均で+4、8ポイントと上昇しており、安心・安全な学校づくりに努めている。今後も関係機関と連携し、いじめ・不登校がゼロになるよう努める必要がある。	4.0	4.0	○特別授業など迅速な学習の充実について高く評価します。解消までには時間を要する現状もありますが、寄り添い続ける姿勢を支持します。 ○道徳教育や人権教育の推進は評価できる。 ○人権の尊重は人として一番大事な事。じっくりと丁寧な取組みを続けて下さい。 ○いじめの早期発見に対する取り組みも評価できる。 ▲不登校に関しては、家庭環境が大きな要因と考えられる。教員の負担増にはなるが、今後も関係諸機関との連携を図っていただき、生徒が不利益を被らないよう努めていただきたい。
5	<b>郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。</b> ・ 農業大学校との連携 ・ 小学校、地域と連携した取組の推進 ・ ふるさと学習の推進	3.2	3.2	○川南町の資源を存分に活用した教育活動であり、生産・販売、クリーン活動など地域貢献への好循環が生まれ高く評価します。 ○県立農業大学校の協力をいただき、カボチャとサツマイモの植え付け・収穫を体験した。また、軽トラでは3年生を中心にサツマイモの販売を行い、地域の中で活動する貴重な体験となった。 ○生徒会が主体となった地域クリーン活動を実施し、地域貢献活動ができた。 ○各学年、総合的な学習の時間で、地域の人材を活用することができた。ふるさと学習については、主に1学年で実施し、ふるさと川南を深く知る機会となった。 ●アンケート結果は、生徒(95、2%)・保護者(91、6%)が肯定的な評価であった。今後もより多くの地域人材を計画的・系統的に活用していきたい。また、地域ボランティアへの参加も今以上に呼びかけていきたい。	4.0	4.0	○川南町の資源を存分に活用した教育活動であり、生産・販売、クリーン活動など地域貢献への好循環が生まれ高く評価します。 ○県立農業大学校との連携した、サツマイモの生産、販売体験は地域社会に参画する良い活動になると評価できる。 ○農大の協力のほか、色々な体験活動ができたのは良かったと思います。ぜひ継続して下さい。 ○地域クリーン活動への取組も、前年の課題を教訓にブラッシュアップを行い、地域貢献と多世代交流に繋がっている。 ○ふるさと学習についても、地域の人材を活用することで郷土愛を育むことに繋がっていることと評価できる。 ○生徒だけでなく教員も、地域のボランティア活動に積極的に参加しており評価できる。

7	<p><b>社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業実施の推進</li> <li>・ICTの効果的な活用研修</li> <li>・ICT支援員の積極的な活用</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの効果的な活用(3分ド・AIドリル)について研修を行ったり、職員間で具体的な指導について情報交換を行ったりしている。本年度は、2、3学年を中心に実践した。</li> <li>○各学力調査等、ICT支援員を活用し、スムーズに実施することができた。</li> <li>●アンケート結果は、生徒(88.8%)・保護者(90.8%)が肯定的な評価であった。今後は、タブレットの持ち帰りを常時化し、家庭学習充実のための支援及び、多様な学びの提供を行う必要がある。また、保護者への周知も徹底していきたい。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スキルを組織的に高める姿勢を評価し、更なるICT支援員との連携による安定した学習環境の実施に期待します。</li> <li>○ICTに関する取り組みは評価できる。</li> <li>○ICT等の研修や情報交換と努力している。(タブレットの持ち帰り)</li> <li>▲多様な人材を育む=「多様性」の意味があるなら、LGBTQに関する取り組みも、今後は必要ではないでしょうか。</li> </ul>
<b>III 教育を支える体制や環境の整備・充実</b>					
1	<p><b>教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事ゼロ</li> <li>・コンプライアンスチェック・研修</li> <li>・業務の見直し</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修や教委からのコンプライアンス通信、新聞等の記事を活用し、職前や職員会議で啓発をした。また、毎月、コンプライアンスチェックを実施し、その結果を全職員で共有し、学校全体と個々の振り返りを行い意識の高揚を図ることができた。</li> <li>○各職員が生徒と接する時間が確保できるよう、校時程の工夫やリフレッシュの定時退行を行っているが、なかなか働き方改革を推進できていない状況がある。</li> <li>●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が92%と肯定的な評価であった。今後もタイムマネジメントや業務の見直しを行いながら進める必要がある。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンプライアンスの徹底において意識の風化を防いでおり高く評価します。</li> <li>○コンプライアンスの徹底に関する取り組みは評価できる。</li> <li>○コンプライアンスチェックをし、意識付けしている。</li> <li>▲業務の見直しについては、具体的な改善に着手されている点を評価し、困難ではありますが、心身の健康に向け更なる業務の簡略化などを期待します。</li> <li>○働き方改革には、職員個人の取り組みでは限界がある。職員の配置基準の見直しをするのが有効な手段と考えるが、学校や町レベルでできる方策でもない。中学校の統廃合により学校規模を見直すことで少しは余裕が生じるのではないかと。</li> <li>○良い仕事をすることは、しっかりとリフレッシュして下さい。中々難しいようですが、お願いします。</li> </ul>
2	<p><b>安全、安心な教育環境の整備・充実を努める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがや病気の未然防止</li> <li>・定期的な安全点検</li> <li>・危機管理マニュアルの確認</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルデジタル版による感染症対策を徹底し、感染症の未然防止に努めた。</li> <li>○毎月、安全点検を行い川南町教育委員会と連携しながら修繕を行って施設・設備の整備に努めた。しかし、老朽化のため修繕箇所は年々増えている状況である。</li> <li>●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が93.9%と肯定的な評価であった。今後も施設の安全点検を実施し、危険箇所の迅速な修繕をしていきたい。また、感染症等を含め、緊急時の対応マニュアルは不断の見直しをしていきたい。</li> </ul>	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症対策の実効性を高めている点、老朽化による修繕箇所が多い中、迅速な対応により生徒の安全を確保し続けている点を高く評価します。</li> <li>○他校に比べ、感染症による学級閉鎖の噂などを聞いていないのは、学校の取り組みが徹底されているからと評価できる。</li> <li>○老朽化に伴う修繕箇所の増加には抗えない。そのような状況でも生徒に事故が起こっていないのは、学校の努力だと評価できる。</li> <li>○建物の老朽化は仕方ないが、毎月安全点検をしているのは、評価できる。</li> </ul>
<b>IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進</b>					
1	<p><b>学校体育の推進に努める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上プランの推進</li> <li>・適正な部活動の推進</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力向上プランに基づいて、体育科で各単元毎に主運動につながるようなトレーニングメニューを作成し、体力向上に努めている。体力テストの結果を見ると学年によって違いはあるが、全国平均を上回っている種目は、男子が、「握力」女子が、「長座体前屈」「50m走」「ハンドボール投げ」となっている。</li> <li>○部活動は平日、休日とも県の方針に沿って行っている。また、部活動指導員、外部指導者が配置されており、効果的な部活動の運営につながっている。</li> <li>●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が90.9%と肯定的な評価であった。体力については、全項目全国平均を目標に、今後も体育科・部活動と連携しながら取り組み、個々の体力向上に努めていきたい。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的なトレーニングメニューを実施している点を高く評価します。</li> <li>○体力向上への取り組みは評価できる。</li> <li>○体力向上プランに基づいてメニューを作成し努力している。</li> <li>○部活動においては、活動環境が整えられていることを評価します。○部活動への外部指導者の配置が進み、適正な部活動の推進が図られていると評価できる。</li> <li>○部活動も県の方針に沿って効果的に行っている評価できる。</li> <li>▲評価指標や具体的な目標は、再考の必要性を感じる。</li> </ul>